



学校教育目標：心豊かな子 たくましい子 自ら学ぶ子

原山小学校の子どもは716色

校長 高野 英俊

新学期が始まり、早くも1か月が経ちました。新緑の葉が美しい運動場で、子どもたちが心地よい風に包まれ、元気に運動したり遊んだりする様子にとてもうれしくなります。お陰様で、原山小の教育活動も順調に進んでいます。今月の26日には、「運動会」の開催を予定しています。よい天気にも恵まれることを心から願っているところです。



1年生 初めての給食

先日、とてもよい天気の朝休みに、運動場を巡っていると中学年の女の子が急に話しかけてきました。「校長先生は、何色が好きですか？」という突然の問いかけだったので、「私が好きなのは、青色です。」とだけ答えたところ、その子は「花壇の花の青？空の青？」と問い返してきました。その問いに対し即答できず、「花の青色も好きだね。今日の空の青色もきれいだね。」と少し曖昧な返答となりながらも、子どもたちの感性の豊かさに、目を開かされる思いになりました。

私たちは普段、どれくらいの色を意識して使っているのでしょうか。私自身思い返してみても20色程度しか思いつきませんでした。調べてみると、日常的に人が使っている色名は30～40色ということでした。JISでは、絵の具は37色、クレヨンには55色を一般規格と示していますが、メーカーでは500種を超える色を用意しているそうです。書籍「色の手帖」にも358色が集録されていて、青色の系統だけでも水色・空色・天色・藍色・薄藍・浅葱・シアン・コバルトブルーなどなど数多く、よく見ると確かに濃淡や明るさなど少しずつ違います。あらためて色について見直してみると、身の周りにある色に鈍感になっている自分に気づかされました。

子どもたちにも、一人ひとりそれぞれに色があります。一見、同じように見えても、実は、それぞれ違う色なのです。私たち大人は、子どもたち一人ひとりの色を目だけでなく他の感覚も全て駆使して捉えなければならないと考えます。そして、その色をより洗練し、さらに鮮やかにしていかなければならないのではないのでしょうか。原山小学校の子どもたち716名の716色。それぞれの色がもっともっと鮮やかに光ってほしいと強く願います。

前述した運動会をはじめ、さまざまな行事のある5月。「子どもたち一人ひとりをさらによく見て、違いを認め、よい所を伸ばすこと」を指導方針の第一に据え、教職員一同『元気・やる気・勇気』で、気持ちを合わせ全力で指導に当たります。今後とも、保護者、地域の皆様にも変わらぬ御理解御支援をどうぞよろしくお願いいたします。